

志布志麓



# 歴史



志布志麓の魅力を全6回(隔月)にわたりお伝えします。

志布志城は内城、松尾城、高城、新城の四つの山城の総称で、鎌倉時代～戦国時代の有力者たちが志布志津(港)をめぐる戦った中世の山城です。これらの山城のうち「内城跡」と「松尾城跡」が国指定の史跡です。

## 第四回 壮大な空堀のある「内城跡」

シラス台地の地形を生かした志布志城は日向、大隅境に位置する志布志津(港)を支配するための山城として整備されていたと考えられますが、築城年代ははっきりしていません。戦いのたび、城主が変わるたび、整備され複雑な城郭群となったようです。多くの専門家による長年の調査で、志布志城は中世山城の特徴をほぼ完全に残しており、県内随一の規模といわれます。

内城跡は、志布志小学校裏門近くが城の正面入り口で、大手口と呼ばれます。居館(現・志布志小学校)のほか、大きな4つの曲輪とそれを取り巻く空堀からなる城郭群です。

城としてのスケールの大きいことは群を抜き、まるで大規模な砦のような威容を誇ります。実際に空堀を歩いてみると垂直に近い高さ8mの急崖が迫ってきます。曲輪や空堀の周りには整然と整えられた土塁が残っています。

史跡公園の散策コースは、矢倉場↓本丸↓中野久尾の順路です。途中、志布志の街や志布志湾が展望できるほか、城主一族が祀った社などがあります。一昨年、大野久尾の曲輪が発掘されましたが、現在は保存のため埋め戻

されています。

次の松尾城跡は最も古い山城です。内城跡から沢日記馬場を隔てた高台に本丸が築かれています。周りに沢日記川と西谷川があり、湧水に恵まれています。

高城跡は宇都上台地で2郭に分かれて麓方面の備えとして、新城跡(現・志布志中学校庭)は町畠方面の備えとして整備されたようです。

大河ドラマの「平清盛」や現在放映中の「真田丸」などと時代背景が重なってきます。



内城遠景と宝満橋



内城跡大手口



志布志城の内城跡の大きさは南北

約500m、東西約250m、面積

97000㎡、本丸の標高は約54m

です。志布志市埋蔵文化財センターで

模型と山城の成り立ちを紹介するビデオ

を見ることが出来ます。山城に出か

ける際は雨の後は避けて、動きやすい

服装、虫除けと水筒もおすすめです。

※1曲輪…山城に造られた開けた場所

※2土塁…土で作られた防御のための壁

写真・文：東郷恵子(志布志麓住人、落語大好き)

問い合わせ先：教育委員会 生涯学習課 文化財管理室 指定文化財係 Tel：472-1111 (内線343)